

課題5 . 子どもの保健と医療の連携活動  
センター内の連携ならびにセンター外の連携

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実 施 活 動	<p><b>センター内の連携活動</b></p> <p>1 . 入院患者（家族）に対する患者満足度調査の実施 平成16年4月～平成17年3月までの間、退院が決まった患者及び家族に対して調査を実施した（回収数899件）。「素晴らしい、とてもよい、よい」との回答が81.6%意見では、良かった点はスタッフの対応が34.6%と最も多く、次いで療養環境が21.6%と続いた。悪かった点では、施設設備に関する事が18.3%と最も多く、次いでスタッフの対応・連絡15.3%で、付き添いに関する事が10.6%であった。</p> <p>2 . 退院に向けての地域への紹介 退院をする患者さんで在宅医療や在宅療養等で地域の関係機関に依頼が必要なケースについて、医療と連携をとりながら支援をしている。今年度は各病棟から24例依頼があり、内容は在宅医療や育児不安が強い事例が多かった。地域への依頼は、訪問看護ステーションや、母親への育児不安が強い場合は保健所や市町村保健センターの保健師に依頼をしていった。地域に依頼したケースについては、その都度必要に応じて相談のり、医療部門との調整役も担っている。</p> <p><b>センター外の連携活動</b></p> <p>3 . 市町村保健師研修 - 軽度発達障害児の地域支援について - 昨年度実施した視覚検診に関する研修で行った方法を取り入れ、心療科に焦点を当て市町村保健師研修を企画、「軽度発達障害児の地域支援について」をテーマとした研修を実施した。研修内容は講義「軽度発達障害児の診断と治療」、心療科外来実習、グループワーク（支援計画の作成）の3回シリーズで、市町保健師8名が参加した。</p> <p>4 . 保育リーダー研修 保健室の調整機能と総合診療部の総合的な療育機能を活用し、気になる子を含む、障害を持つ子どもたちの理解と対応の基本的な知識と技術について、学習する機会を提供し、地域で保育を進めていく上で、中核的な役割を担う保育士を養成することを目的に、保育リーダー研修を実施した。</p> <p>共通テーマ「軽度発達障害児の理解と保育」</p> <p>第一回：平成16年5月25日（火） 参加者 85名 基調講演「軽度発達障害の理解 - 広汎性発達障害を中心に - 」講師（心療科医師）小石誠二</p> <p>第二回：平成16年7月13日（火） ・ 講義「子どもの遊びを活性化すおもちゃ環境」講師（保育士）原純子、・ 事例検討</p> <p>第三回：平成16年9月14日（火） ・ 講義「子どもの困った行動の理解と対応」講師（臨床心理士）大河内修、・ 事例検討</p> <p>第四回：平成16年11月16日（火） ・ 講義「日常生活動作に関する援助」講師（作業療法士）田辺祐子 ・ 事例検討</p> <p>第五回：平成16年1月20日（火）</p>

	<p>・講義「子どもの構音障害」 講師（言語聴覚士）中山博之 ・事例検討  研修会の内容については、重点研修の項目を参照。</p> <p>5 健康日本 21 大府市計画推進評価会議作業部会  作業部会委員として出席 中澤和美</p> <p>(1) 平成 16 年 10 月 6 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時まで  ・ 取り組み状況の報告書作成について</p> <p>(2) 平成 17 年 2 月 2 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで  ・ 健康日本 21 大府市計画平成 17 年度取組みの重点について</p> <p>6 2004 年度子育てフェスタ in あいち  実行委員会（実行委員：中澤和美）</p> <p>(1) 平成 16 年 4 月 28 日(水)午後 3 時から 5 時  ・ 子育てフェスタ、今年度の基本方針</p> <p>(2) 平成 16 年 6 月 16 日</p> <p>(3) 各地区（名古屋・知多・尾張）委員会の企画について</p> <p>(3) 平成 16 年 7 月 21 日（水）午後 3 時から 5 時  知多ブロック実行委員会：知多ブロックの企画等について</p> <p>(4) 平成 16 年 8 月 20 日(金) 午後 3 時から 5 時  展示内容等の確認</p> <p>(5) 平成 16 年 9 月 15 日（水）午後 3 時から 5 時  フェスタ当日のスケジュール、役割分担等</p> <p>(6) 平成 16 年 11 月 16 日（火）午後 3 時から 5 時</p> <p>(7) 平成 16 年 12 月 12 日（日）午前 10 時から午後 4 時まで  子育てフェスタ in あいち知多開催</p>
<p>学術活動</p>	<p>「軽度発達障害児への支援 - 各関係機関と医療機関保健師の役割」  青山亜由美 2003.1.22 平成 16 年度愛知県公衆衛生研究会（東浦町）</p>

## 医療（病棟）との連携

保健部門では、退院をする患者さんで在宅医療や在宅療養等で地域の関係機関に依頼が必要なケースについて、医療と連携をとりながら支援をしている。

平成15年8月1日に保健室の保健師と医療部門の看護部長及び外来、病棟師長が出席をし、連携についての打ち合わせ会を開催その際医療と保健部門が連携を深めていく必要性をお互いに確認をした。

平成15年10月から病棟から退院するケースについて、連絡表を用いて（但し、急な場合は、口頭での連絡あり。）保健部門への提出があり、保健部門としての支援が始まった。

平成16年度は、各病棟から24例依頼があり内容は、在宅医療や育児不安が強い事例が多かった。地域への依頼は、訪問看護ステーションへや母親への育児不安が強い場合は、保健所や市町村保健センターの保健師に依頼をしていった。

保健室をとおして、地域に依頼したケースについては、退院後も母が保健室に来室したり、電話での相談があり、その都度必要に応じて、相談にのったり、医療部門との調整役も担っている。

### 病棟から保健室に連絡のあったケース

月	病名	地域への依頼	保健室での対応状況
4	エプスタイン奇形、心不全	定期的な家庭訪問し児に適切な介護や成育できているか確認	母と面接 H 保健所保健師に依頼 地域でのフォロー H 市保健所保健師
5	心室中隔欠損、心不全	第1子でもあるため、定期的な育児支援	父母と面接 T 市保健所保健師に面接し依頼をした。 看護師から提出のあった看護サマリーを送付 地域でのフォロー T 市保健所保健師
5	総肺静脈還流異常	当初の依頼 育児サポートについての情報提供、相談の依頼	母に面接 訪問看護、市保健師、保健所保健師に依頼をしてきたが、 病状悪化し、今後は訪問看護の調整等必要となってきた。
6	気管支喘息	退院後の環境整備及び家族関係について	母に面接 退院後保健所保健師に訪問依頼 病棟開催のケース会議に出席
6	心室中隔欠損、心房中隔欠損、エプスタイン奇形	育児、療育に関するサポートを望み難い状況にあるため 育児支援	母に面接 H 市保健所に連絡 H 市保健センター保健師に依頼

			地域でのフォロー T市保健所保健師
6	両大血管右室起 始 肺動脈閉鎖 動脈管開存 CATCH22 症候 群	育児支援 心不全、呼吸不全のフォロー	母に面接 家族への働きかけも必要 T保健所保健師に面接し依頼 I町保健センター保健師に 面接し依頼 地域でのフォロー T保健所保健師
7	ファロー四徴 肺動脈閉鎖 主要体肺動脈移 転血管	母若年 育児サポート	母と面接 N市保健師に訪問依頼 K市保健師に訪問依頼 地域でのフォロー N市保健所保健師 K保健所保健師
7	アトピー性皮膚 炎、栄養摂取不良	育児サポート (食事のすすめ方、スキンケア ア、児への関り方)	父母に面接 O市保健所保健師に訪問依頼 地域でのフォロー O市保健所保健師
7	慢性腎不全 水腎水尿管 低形成腎	外来受診時診察中に母泣ぐ む 育児支援	母と面接 保健室の紹介 10月外来受診時面接予定
7	心室中隔欠損	心疾患もふまえ、児の成長の 確認と育児支援	母に面接 A市保健センターから状況を把握 K保健所安城支所保健師から状況把握し 訪問依頼 地域でのフォロー K保健所安城支所保健師
7	総肺静脈還流異 常	心疾患もふまえ、児の成長 育児支援 母の精神的な不安の緩和 HOTの取扱及び注意事項	母に面接 T市保健センター保健師に訪問依頼 地域でのフォロー T市保健センター保健師
8	腸回転異常症	母方祖母が精神不安定 両親の相談相手 嘔吐が継続的にあれば、定期 的な体重測定、成長の確認	母に面接 T市保健所保健師に依頼 地域でのフォロー T市保健所保健師
8	プラダーウィリ ー症候群	母の養育状況の確認	K保健所安城支所保健師に状況把握と訪 問依頼

			A 市保健センター保健師に状況把握 地域でのフォロー K 保健所安城支所 保健師
9	C P 脊柱側弯 股関節拘縮	児の状態観察 褥瘡予防 介護に関する相談	母と面接 母訪問入浴とショートステイの希望あり N 市児童福祉センターに依頼 (A 訪問看護ステーションに依頼したが、今回の退院後再度入院した結果母から希望がなく、利用しないこととなった。) 地域でのフォロー N 市児童福祉センター
9	気管支喘息	母の病気に対する支援 在宅療養について	退院に向けての院内カンファレンスに出席 C 保健所保健師に電話で連絡し依頼 ケースカンファレンスに出席 地域でのフォロー C 保健所保健師
10	鎖肛、慢性腎不全、ファロ - 四徴症、尿道狭窄症、てんかん	退院後のケアが多く、母の負担が大きい。地域の社会資源の利用について	母と面接 院内カンファレンス出席 長期入院が予想され母の面接継続
10	ファロー四徴	育児に対しての知識不足と育児不安 心疾患の手術までの家庭での管理について不安あり	母に面接 N 保健所保健師に依頼 地域でのフォロー N 保健所保健師
11	ファロー四徴 肺動脈閉鎖 左肺動脈欠損 右肺体側副血行路	両親の精神的なフォロー 育児相談 育児不安に対する相談 在宅酸素使用のため定期的な児の観察と母親への支援	母と面接 O 市保健所保健師に育児に関する支援の依頼 O 市医師会訪問看護ステーションに在宅医療に関して依頼 地域でのフォロー O 市保健所保健師 O 市医師会訪問看護ステーション
12	ファロー四徴	虐待予防の視点で地域の関係機関が連携して支援	小学校に本児の状況についての観察と今後 T 市保健所と児童相談センターにも相談し連携するよう依頼 T 市保健所保健師に小学校からの相談に対応してくれるよう依頼 T 児童相談センターに報告(ケースワー

			ーから) 地域でのフォロー 小学校 T市保健所 T児童相談センター
1	ヒルスシュプリ ング病 心室中隔欠損	母の相談相手 母の処置に対する確認	外来通院時の面接
2	両大血管右室 肺動脈狭窄	育児不安が強いため、育児へ の援助	母に面接 K市保健センターに連絡 外来通院時面接予定 地域のフォロー K市保健センター保健師
2	C P 脊柱側わん 股関節拘縮	胃ろう造設し母に不安あり 褥瘡予防	母と面接 訪問看護ステーション2ヶ所に連絡 N療育センター、N市中央児童相談セン ターに連絡 地域でのフォロー 訪問看護ステーション(看護) 訪問看護ステーション(リハビリ) N療育センター N市中央児童相談センター
3	中耳炎	児の発達、発育状況の確認 母のサポート	母と面接 地域に依頼せず保健室にて外来受診時 面接継続
3	ファロー四徴 心内膜欠損 ダウン症	入院が長期化しているため、 母の精神面でのフォロー	病棟看護師から母へ保健室の紹介がし てあり。 母の求めに応じて保健室で面接

研修名	市町村保健師研修 軽度発達障害児の地域支援について
<p><b>【目的】</b> 医療（外来診察等）の実際を知ることにより、医療と保健の連携を強化し、地域でのケース支援に役立てる。</p> <p><b>【日時、内容】</b></p> <p>（１）平成 16 年 6 月 24 日（木）午後 2 時～午後 4 時まで            講義 「軽度発達障害児の診断と治療の実際」            講師：あいち小児保健医療総合センター 心療科医師 東 誠</p> <p>（２）平成 16 年 7 月 8 日、7 月 22 日（木）、8 月 26 日（木）、9 月 9 日（木）            午前 9 時～13 時まで *この日程のうち、一人 1 回参加する。            心療科外来の実際を学び、ケースを選択し支援計画を作成する。</p> <p>（３）平成 16 年 9 月 28 日（火）午後 2 時～午後 4 時まで            グループワーク（ケース支援計画についてグループで検討をし、地域での支援について考える。）</p> <p><b>【参加者】</b> 市町保健師 8 名（その他、講義のみ参加保健所保健師 3 名）</p> <p><b>【研修生によるアンケート評価】</b></p> <p>（１）学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を踏まえた支援を考えることが大切であるということ。</li> <li>・母（及び家族）が児にしっかり向き合って育児する（療育する）気持ちが重要、そう思えるように支援していくこと。</li> <li>・軽度発達障害は多くあることと、小さいときに療育していかないと大きくなってトラブルになる事を聞いた。保護者は問題意識をもっていないことが多く、それでも支援していかなければということを感じた。</li> <li>・受診が保健センターにとってのゴールになりがちだが、そこからのフォローをケースに合わせてしていくことが大切だと確認した（機関おししの連絡や母・家族へのサポート）。地域支援を必要とすることがわかった。</li> <li>・支援計画を立てるとき、他の人の意見や考え方、先生から助言をいただき、考えの中に広がりを持った。また、地域の様々な機関との連携、母親との信頼関係の大切さを強く学んだ。継続して母親等サポートできるといいと思う。</li> <li>・心療科の医師が感じている地域の役割について知ることができた。</li> <li>・医療機関の医師が保健師に望んでいることがよくわかった。地域の療育施設の紹介も丁寧にしていきたい。</li> <li>・子どもが医療機関がつながっていれば一安心と、私自身思ってしまう点があったので、今後気をつけたいと思った。</li> </ul> <p>（２）今後地域活動で活かせること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続支援の大切さ、地域のコーディネーターになるというのは本当にそのとおりだと思う。発達障害を疑わせるケースはたくさんあって、他の保健師にも伝えていきたい。（毎日の面接の積み重ねが信頼関係を作っていくと毎日感じている。）</li> <li>・積極的にコーディネートを考えていく姿勢でいきたいと思う。</li> <li>・問題を抱えるケースに対し、自分が何ができるかを考えるとともに、親との信頼関係を土台に地域の他機関との連携を図っていきたい。</li> <li>・1 事例 1 事例を大切にフォローしていかないといけないということは痛感した。</li> <li>・学校・保育園幼稚園と医療・保健など関係機関の連携を大切にしていきたい。</li> </ul> <p><b>【まとめ】</b></p> <p>今年度初めて企画した研修であったが、医療の実際を学ぶことにより、地域での支援のあり方を考えるよい機会になったと思われる。来年度は対象者の範囲を拡大して計画をしていく。</p>	

## 平成 16 年度 入院患者（家族）に対するアンケート調査の実施

目的：センター医療部門の利用者である患者及び家族からの意見をモニターすることにより、質の高い医療の提供やこどもと家族を取り巻く環境（人的・物的・空間的）に配慮したこどもと家族のための療養環境作りに資する。

対象：平成 16 年 4 月から平成 17 年 3 月までの退院が決まった患者及び家族。

方法：入院手続き時に調査票を配布し協力依頼、退院時に医事において回収。回収数 899 枚

[ 表 1 ]

No.	質問タイトル	すばらしい	とてもよい	よい	わるい	とんでもない	利用して いない	未記入	計
1	ご入院	269	352	253	13	2	0	10	899
		29.9%	39.2%	28.1%	1.4%	0.2%	0.0%	1.1%	100.0%
2	看護ケア	401	323	159	10	1	1	4	899
		44.6%	35.9%	17.7%	1.1%	0.1%	0.1%	0.4%	100.0%
3	医療ケア	443	317	129	1	0	0	9	899
		49.3%	35.3%	14.3%	0.1%	0.0%	0.0%	1.0%	100.0%
4	ご家族中心の医療	320	334	209	8	0	10	18	899
		35.6%	37.2%	23.2%	0.9%	0.0%	1.1%	2.0%	100.0%
5	案内	251	356	248	24	1	9	10	899
		27.9%	39.6%	27.6%	2.7%	0.1%	1.0%	1.1%	100.0%
6	お子さん(患者様) の快適性	324	339	205	17	0	8	6	899
		36.0%	37.7%	22.8%	1.9%	0.0%	0.9%	0.7%	100.0%
7	ご家族の快適性	183	311	333	46	4	12	10	899
		20.4%	34.6%	37.0%	5.1%	0.4%	1.3%	1.1%	100.0%
8	ご退院	232	284	247	17	3	4	112	899
		25.8%	31.6%	27.5%	1.9%	0.3%	0.4%	12.5%	100.0%
9	外来診療	145	239	340	59	4	51	61	899
		16.1%	26.6%	37.8%	6.6%	0.4%	5.7%	6.8%	100.0%
10	救急診療	56	55	77	9	3	514	185	899
		6.2%	6.1%	8.6%	1.0%	0.3%	57.2%	20.6%	100.0%
11	日帰り手術 日帰り検査	37	71	84	5	2	481	219	899
		4.1%	7.9%	9.3%	0.6%	0.2%	53.5%	24.4%	100.0%
12	全体のご印象	335	378	168	3	0	0	15	899
		37.3%	42.0%	18.7%	0.3%	0.0%	0.0%	1.7%	100.0%
No.1～12		2,996	3,359	2,452	212	20	1,090	659	10,788
		27.8%	31.1%	22.7%	2.0%	0.2%	10.1%	6.1%	100.0%
		有	無	未記入	計				
13	退院後の心配事	228	528	143	899				
		25.4%	58.7%	15.9%	100.0%				



〔表2〕退院後の心配事

病気・術後の回復等	学校生活・学業等	食生活	在宅看護家の環境	通院・受診	家族	精神的不安等	その他	計
95	6	2	40	23	0	25	16	207
45.9%	2.9%	1.0%	19.3%	11.1%	0.0%	12.1%	7.7%	100.0%

〔表3〕良かった点

施設・設備	療養環境	医療	看護	スタッフの対応・連絡	面会	システム	付き添い家族	食事	その他	計
90	172	94	68	276	10	3	25	17	42	797
11.3%	21.6%	11.8%	8.5%	34.6%	1.3%	0.4%	3.1%	2.1%	5.3%	100.0%

〔表4〕悪かった点

施設・設備サイン	療養環境	医療	看護	スタッフの対応・案内・連絡	面会	システム	付き添いに関わる事	食事	売店レストラン	その他	計
79	31	3	27	66	14	41	46	31	27	67	432
18.3%	7.2%	0.7%	6.3%	15.3%	3.2%	9.5%	10.6%	7.2%	6.3%	15.5%	100.0%

〔表5〕改善へのご提案

施設・設備サイン	療養環境	医療	看護	スタッフの対応・案内・連絡	面会	システム	付き添いに関わる事	食事に関する事	売店レストラン	その他	計
137	42	3	4	33	14	29	52	11	36	27	388
35.3%	10.8%	0.8%	1.0%	8.5%	3.6%	7.5%	13.4%	2.8%	9.3%	7.0%	100.0%